

令和7年4月15日

松阪市議会議長 中島清晴 様

研修報告書

下記の内容で研修いたしましたので、報告いたします。

日時:	令和7年4月15日(火曜日) 10:00 ~ 12:00
会場:	松阪市役所 議会棟 第3・4委員会室
テーマ:	生成 AI の活用について
講師:	株式会社サンエル 副社長 南治輝氏
参加者:	【蒼水会】濱口高志 森はるか 野呂一平 赤塚かおり 深田龍 沖和也
作成者:	深田龍
目的:	AI を議員活動において活用できないか、その領域やシーン又その方法を学ぶこと
研修内容:	1. テキスト生成 AI 例: ChatGPT、Claude、Gemini(旧 Bard)など。 用途: メール文や案内文の作成、記事の執筆などに利用されます。ユーザーが指示を与えることで、特定のテーマに基づいた文章を生成します。 2. 画像生成 AI 例: DALL・E、Midjourney、Stable Diffusion など。 用途: ポスター用のイラストや特定のスタイルの風景画を描くことができます。ユーザーが求めるビジュアルを生成するために、詳細な指示を与えることが重要です。 3. 音声生成 AI 例: Voicevox、ElevenLabs、Suno AI など。 用途: ナレーションの読み上げや音楽の作成が可能です。特定の声質やスタイルを指定することで、より個別化された音声を生成します。 4. 動画生成 AI 例: Runway、Pika、Sora(開発中)など。 用途: 特定の雰囲気やテーマに基づいた動画を作成することができますが、まだ開発中の技術が多く、実用化には時間がかかる部分もあります。 5. 業務支援 AI 例: Notion AI、Copilot(Microsoft)、Felo など。 用途: 会議メモや議事録の作成、データの要約、資料作成などを自動化します。業務の効率化に寄与するツールとして注目されています。 生成 AI の特性 生成 AI は、非常に優秀な「秘書」のような存在ですが、以下のような特徴も持っています。 このように、生成 AI は多様な分野での活用が期待されており、正しい使い方を学ぶことで、業務や創造的な作業を大幅に効率化することが可能。 (以上、資料を生成 AI でまとめたものを人為的にチェックした内容)

	<u>現状の AI に対する認識と注意点</u> 人のマネをして、自動で行うしくみ、生成 AI は、優秀だけどちょっとズレる新米秘書だと思う、くらいがちょうどいい認識。 ・知識はあるけど、前提をちゃんと理解していない ・空気を読むのは苦手 ・丁寧に指示を出せばすごく力を出せる 注意点)ハルシネーション AI がそれっぽいことを言っとうそをつくこと LLM は自然な会話をするのが目的となっているため、ハルシネーションが発生する。 【対策】 ・重要な情報はそのまま信じない → 下書きだと考えること ・出典があるかを確認する → どこからの情報が教えてと追い質問をしてみる ・正しい使い方を見極めることは難しい場面もある。プロンプトの書き方やハルシネーションへの対応など、学ぶべきものも多く、不安に感じることもあるかもしれないが、新しい技術をうまく使えば、情報整理やアイデアの発想がぐっと効率的になる。 専門的な内容は人の目で確認する → 法律、データなどは特に注意 複数の AI でクロスチェックするのも有効
所感:	生成 AI と聞くと、未来型のツールとしてとんでもないことをしてくれるような印象を持ちがちだが、現状の生成 AI は何ができて何ができないのか正しく理解することで、できる範囲を正しく活用する発想を持つことが大切な視点だった。そのためにも、世界で開発が進む現状の生成 AI の説明やワークを通じて、どんなことができるのか(できないのか)を体験できたことは貴重な機会となった。携帯がスマホへと進化してきたように、AI の進化に付いていくためにも、今回の研修を通じて AI に対する認識を 12 人の議員で持てたことは議会における DX にも今後、つながるかもしれない。
現場風景:	研修風景

以上
蒼水会 代表 濱口高志